

特集 私の宝物

後世への最大遺物とその仲間達 北ブロック 副島 正人

私の宝物は、内村鑑三の『後世への最大遺物』という岩波文庫の本です。

私は佐賀県神崎町の出身。田舎の小学校から越境で佐賀市内の国立付属中学に入り、県下のトップクラスとの競争が続くなか、自ずと自分の一生を漠然と考えるようになりました。この先、高校・大学で受験戦争、社会人になったら出世競争して、その先どうなるのだろうか？と中学生なりに、そんな人生しかないだろうか？よしんばうまくいったとして本当に自分で満足できる充実した人生が送れるだろうか？

汽車通学でしたので、駅近くの書店で時間待ちのところ、偶々『後世への最大遺物』に出会いタイトルに惹かれて購入しました。

「愛国心とは素朴に故郷を慈しむ心」「地の塩とは、人にとって塩は目立たないが無くてはならない存在」「自分が生きていくには自分一人では生きていけない、必ず人のお世話になる。無欲の歩みにて一瞬一瞬を疎かにせず、一念一念念じて信じて行くことが大切である」、との文言に触れて、なんとか自分にボオ〜とした指針の様な物が見えてきたのを憶えています。

1958年に内村鑑三の趣旨の学生寮「登戸学寮」が小田急線向ヶ丘遊園に出来、そこに入寮し、同じ釜の飯を頂き、互いの部屋で夜明けまで語り合った仲間や600名を超える卒寮生との繋がり、それも私の宝物です。現在でも学寮とは何かと関わっていますが、俗世まみれが染みつきの流れに安住して安易な生活に流されているのが実情です。

趣味こそ私の宝 湘南ブロック 大澤 美實

趣味を持たない人の人生は「不幸」である。

長年、ライターを生業としてきた私の身上は「好奇心」と「多趣味」であった。老齢に達した頃から多趣味のほうは減少したが、今のところ趣味と言えは「音楽」と「読書」に尽きる

家でピアノ教師をしていた母の影響もあって、子どもの頃から音楽に親しんできた私は、何か一つの楽器を使えたらと思っていた。その夢は、いま叶わぬと言えようが、諦めてはいない。残り少ない老い先の中で音楽の趣味を求めたいと考えた結果、辿り着いたのが「ギター」を弾きたいと言う夢である。

楽器の代わりにのめり込んでいるのがCDで、それも若い頃から親しんでいた「ジャズ」である。東京に勤めていた頃、内外のジャズプレイヤーが出演するジャズクラブに、よく足を運んでいた。生演奏を聴けなくなってからは、CDコレクションに没頭した。増え続けたCDの数は、優に千枚を超えている。

深夜、読書の傍らウイスキーのアテに好きなCDを聴くのは、至福のひとつと言えよう。

本を揃える目的は取材や執筆のためで、ジャンルは酒・食・傾聴と回想法・グリーンケア・高齢者、認知症問題など多岐に及んでいる。そのほかでは趣味としてのジャズ・酒・昆虫・映画・ミステリや随筆(エッセイ)など。さらには茅ヶ崎に居を構えた敬愛する作家・開高健の著作も多数揃えてある。

幕末の志士らが師と仰いだ儒学者・佐藤一斎の著『言志四録』の一節「老いて学べば、則ち死して朽ちず」は私の「座右の銘」で、生涯学習を志す私への指針となっている。



*自製のCDラックの一部

私のお宝

中央ブロック

日小田 文代

私のお宝は「四国八十八か所巡拝御宝印譜」のお掛軸です。全くの幸運から手に入れる機会に恵まれました。令和2年夏ごろ GOTO トラベルで四国遍路ができると主人が知り、2人で四国霊場巡りに出かけようと決めてくれたのです。

11月9日に出発、8泊9日、ジャンボタクシーでの旅、1台に6人、5台1組。令和2年は閏年で、「逆打ち遍路」のため八十八番大窪寺からのスタートでした。

大窪寺で真新しい掛軸を購入、遍路支度を整えました。菅笠に迷故三界城、悟故十方空、本来無東西、何処有南北とあり、これが遍路する人の心得と聞いたが未だに飲み込めていません。

足には自信がなかったのですが、5回の結願をしている主人が私の先達役でした。本堂前、大師堂前での納札、礼拝読経を繰り返すこと百七十六回、あつという間の出来事でした。

北海道から参加された七十代のご夫婦に、「難行苦行ですが最後まで頑張りましょう」と励まされました。

途中いろいろな言葉に出合いました。①お遍路は未見の我に出合う旅②子孫に残す最大の財産は、生き様と徳性(心)であるなど。

「お名残りや、これで札所の打ち納め、またのご縁を結び給え」を読んで霊場を後にしました。このお軸は、孫娘が嫁ぐ日に持たせたいと思っています。



お名前帳

西ブロック

青山 京子

「お名前帳」とラベルを張った、黄色くくすんだファイル、これが私の宝物です。

ファイルの中には、私がこれまでの年月に出会った方々の名前が綴られています。第一項は戦後の食糧難を助け合って過ごした70年前の同窓の名簿。教員になり、生意気な私を導き励ましてくださった同僚の名簿がその次に。若く未熟な頃の友人たちです。

還暦後の第二の人生に私は視覚障害者援助音声訳の奉仕を選びました。積極的であり、しかし謙虚に生きる奉仕会員の方々とのお出会いから多くのことを学びました。25年も共に過ごした、生きていく土台を造って下さった方々です。

ファイルは人生の区切りをつけて組まれていきました。(ある人)のページを開けて思い出を語る楽しみが、私の慰めの核になりました。

第三項には国内外の奉仕を広げる団体、ロータリー(RC)とソロプチミスト(SI)の仲間です。もう25年もの昔に交換したバルセロナのキーホルダーはまだ健在です。地球儀を辿る思い出は、小さな冊子となって挟まれています。ソロプチミストは女性の専門職の団体で国内外の女性に目を向ける活動に賛同して会員になりました。私の視野が広がりました。

80歳になってから地域の「読み聞かせグループ」の奉仕活動に入れていただきました。二十数人の仲間、年齢男女の別なく奉仕する方々に混ざり地域に溶け込んでの活動に自分が生かされている実感を味わうことが出来ました。そしてファイルにまた、新しい名簿が加わりました。米寿まで指折り数えられる近さになった私が、「ナルク横浜」の会員になれたのです。私はナルクの仲間と共に、人に町に尽くすことの幸せを頂きました。会員同士が手と手の温もりを与え合って、日々を喜び楽しむ姿に、この仲間に入れたことを感謝しました。私は今、91歳の幸せな日々を過ごしています。私の人生とともに歩み、育ててくださった方々が綴じられている、活字の薄れてきた「お名前帳ファイル」が私の宝物です。